

候。前々申渡置候改作之御法嚴重相守、且又田・畑共養手入等無油斷情に入候様に、十村并肝煎・組合頭に於所々急度申渡候。相廻り申村々、非人躰之者相見え不申候。此外御郡方相替儀無御座候。以上。

巳六月廿四日

一〇六 改作方御用巡廻に付扶

持方代勘定之儀書出扣

石川郡之内改作方爲御用、辰十月十日金澤罷立、同廿三日右御用相廻罷歸候、道程日數之覺。

一、十四日 日數

一、二十二里七町

金澤より三ツ屋村迄、三ツ屋村

より戸水村迄、戸水村より觀音

堂村迄、觀音堂村より押野村迄、

所々村傳。

一、二十四里十八町

押野村より宮永村迄、宮永村よ

り村井村迄、村井村より宮保村

迄、宮保村より福留村迄、所々

一、二十九里二十五町

村傳。

福留村より日向村迄、日向村よ

り堀内村迄、堀内村より野々市

村迄、野々市村より末村迄、末

村より田井村迄、所々村傳。田

井村より金澤迄。

七十四里十四町

右爲御用罷越候刻、中勘御扶持方代等文丁銀百九十目請取候條、指引御制符可被仰渡候。以上。

知行高何程

寬延元年閏十月十一日

名 判

御 算 用 場

一〇七 百姓不應諸國勸化事

今般從公儀、諸國勸化之儀に付御書立物之寫二通相渡り候に付、私共詮議之趣可申達旨御申候。御領國一統御改作に被仰付、諸國一統之勸化御座候は、御上より御償御出被下候。百姓共より指出申例無之候。是以後も右先例之通

に御座候へば、食着仕儀無御座候。以上。

五月廿日

改作奉行 九人

御算用場奉行三人様

一〇八 百姓風俗之儀等改作

奉行より觸

覺

一、諸郡御扶持人并十村を始、末々頭振迄、近年風俗惡敷、改作之御法年々忽に相成候に付、去る寅年書立を以申渡置候。今以風俗改り不申、末々心服不仕躰に候。畢竟御扶持人等人々相愼、諸事取捌之儀仲間致熟談、和順を以可相勤儀に候。新田しらべ方等之儀茂、其組之十村并新田裁許共の茂、得と及示談可申所、人により末々心服不仕儀も、權を以押而申渡候族も有之躰に候事。

附、新田裁許共は、新田しらべ方之儀、猶更相役得と申談、十村にも及示談、其上を以免相等可相極事に候。か様之儀も人により、甚心得違茂有之躰に候條、急度相愼可申候。

一、近年諸郡共に、御扶持人等惣様分限を越、華麗に相成候。准之末々小百姓・頭振躰迄も奢出來、百姓之行儀を取失候。殊に遠所之十村等金澤に罷出候節、御用に事よせ數日致逗留、種々不行跡之族茂粗相聞え候。此儀に付舊臘御算用場奉行中より、拙者共迄内々に而示談之趣も有之候に付、此度分而申渡候條、自今之儀猶更嚴重に相心得可申候事。

一、組下之内人柄不宜者有之躰、外より相顯、曲事に茂可成儀を、其裁許之十村一圓不存、其通に仕置候儀、油斷之至に候。向後右躰之族、隨分心を付可申候事。

一、年若成十村等は、改作之御法得とは承知不仕儀も可有之候間、年來相勤候者に承請可申事に候事、其身之了簡を以、勝手次第に取替候輩も有之躰に候。年來功者之輩と申談、萬端間違無之様に可相心得事。

一、御郡々用水之儀に不限、輕き出入之品は、十村廻り口切に而夫々相嘴、様子により御扶持人茂申談、可成程は穩便に可相嘴候。勿論何事に不寄、拙者共相違、指圖を請候儀は通例之事候得共、輕重之差別も無之相違候而は、結